

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-730	A-750	17-012	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b>			
Alcohol Consumption and Mortality From Coronary Heart Disease: An Updated Meta-Analysis of Cohort Studies. アルコールと冠動脈疾患死亡：コホート研究のメタアナリシス			
<b>執筆者</b>			
Zhao J, Stockwell T, Roemer A, Naimi T, Chikritzhs T.			
<b>掲載誌</b>			
J Stud Alcohol Drugs. 2017 May;78(3):375-386.			
<b>キーワード</b>			<b>PMID</b>
アルコール、冠動脈疾患死亡、メタアナリシス			28499102
<b>要 旨</b>			
<b>目的：</b> 少量のアルコール摂取は冠動脈疾患（CHD）に対し保護的であることがこれまでのメタアナリシスにて報告されている。しかし、非飲酒の誤分類、不十分な調査による飲酒量の把握、選択バイアスなど、研究の潜在的なエラーが存在する。本研究では、アルコールと CHD 死亡との関連に関する論文の最新のメタアナリシスを行った。			
<b>方法：</b> PubMed などを用い、前向き研究にてアルコールと CHD 死亡との関連を検討した論文を検索した。ランダム化効果モデルを用い、アルコール摂取による CHD 死亡の相対リスク（RR）および 95%信頼区間（CI）を算出した。また、コホート集団の年齢、心疾患既往の考慮（調整あるいは除外）有無、研究の質が高い（適切な飲酒量の評価、喫煙で調整しているなど）かどうかで層別した場合の RR および 95%CI を算出した。			
<b>結果：</b> 抽出された 45 論文を用いたメタ解析の結果、少量のアルコール摂取者（RR: 0.88, 95%CI: 0.69-0.93）、全飲酒者（RR: 0.88, 95%CI: 0.78-0.99）において CHD 死亡リスクは有意に低かった。一方、層別化解析では、対象者年齢が 55 歳未満の研究（RR: 0.95, 95%CI: 0.75-1.21）、心疾患既往を考慮した研究（RR: 0.87, 95%CI: 0.71-1.06）、質の高い研究（RR: 0.86, 95%CI: 0.68-1.09）において、少量のアルコール摂取は CHD 死亡リスクと有意な関連を認めなかった。また、55 歳未満では非飲酒者に比し、禁酒者（RR: 1.45, 95%CI: 1.08-1.95）および機会飲酒者（RR: 1.44, 95%CI: 1.09-1.89）で CHD 死亡リスクが有意に高かった。			
<b>結論：</b> 抽出された全ての研究を統合解析すると、アルコール摂取と CHD 死亡リスクとの間に関連を認めたが、この関連は対象者年齢が 55 歳未満の研究、質の高い研究、心疾患既往を考慮した研究のみでの検討では認めなかった。高齢者においては、アルコールの心保護効果が確認されたが、選択バイアスなどの影響による可能性が示唆された。			